



那珂川河畔プロムナード



水面に映る やわらかな まちづくり

りぼんシティオ那珂川の全体像

その場所には泰然と流れる川がある。
時代が移り、都市の性格が変わった。
都市開発のあり方も少しずつ変わっていく。
川が中心のまちづくり。
市民が参加するまちづくり。
21世紀の風景がすぐそこに見え始めている。



「りぼんシティオ那珂川」って何だろう

「りぼんシティオ那珂川」。あなたはこの名前をお聞きになったことがあるだろうか。青振山脈に端を発し、郡心を貫き博多湾に注ぐ那珂川。その那珂川下流域に、川の東西に分かれるかたちで博多区的美野島・竹下地区と南区の清水・塩原地区が広がっている。「りぼんシティオ那珂川」は、那珂川の貴重な自然を見直し、総合的な景観を意識した快適な住環境を作ろうとする新しいまちづくりプロジェクトの愛称だ。時代の変遷とともに川に対する人の営みはさまざまに変化している。人々の住むことに対する考えも変わってきた。守る環境から共に生きる環境へと、川に対するまなざしにも大きな変化が見える。「りぼんシティオ那珂川」は、川と景観を生活の中心に据えた、これまでにないまちづくりの試みなのだ。

結びつけ、生まれ変わるまちづくり

「りぼんシティオ那珂川」の名は平成6年春、市民からの公募によって決められた。「りぼんシティオ」のりぼんには那珂川の両岸を結びつける、生活に優しいまちづくりのイメージが託されていて、同時に英語のリボン(RIBBON)生まれ変わった)にも音を重ね、新しいまちづくりへの期待を表わしている。また、「シティオ」はフランス語のシテ(中心)から生まれた言葉で、「りぼんシティオ那珂川」には、エリアの中心を流れる那珂川の両岸が結びつき、生活に優しいこれから新しく生まれ変わる川のまちといういくつもの意味が込められている。「りぼんシティオ那珂川」の対象となる両地区は、「JR博多駅の南約1.1kmから35kmの都心部周辺に位置している。地区内にはJR竹下駅があるほか、西鉄大橋駅と高宮駅から徒歩12

分。車なら天神、空港まで約12分という良好なロケーションを誇っている。

「りぼんシティオ那珂川」には今までのまちづくりにはない大きな特徴が数点ある。まず、那珂川という都市河川の再生がプロジェクトの核にあつて、水辺の緑地づくりとそれを前提とした住環境整備が目標に掲げられていること。また、市が住民との意見交換を繰り返して、それらを事業内容に積極的に反映させようとしていること。さらに、計画に関わる道路、公園、橋、河川などの公共施設整備の事業者と、住宅供給を担う民間テイヘロッパー、住宅・都市整備公団が、互いに密な連携を取り合って総合的に取り組んでいること。当事者それぞれがじっくりと話し合いを重ね、時間をかけながら計画は現実のかたちになっている。完成は平成14年の予定だ。